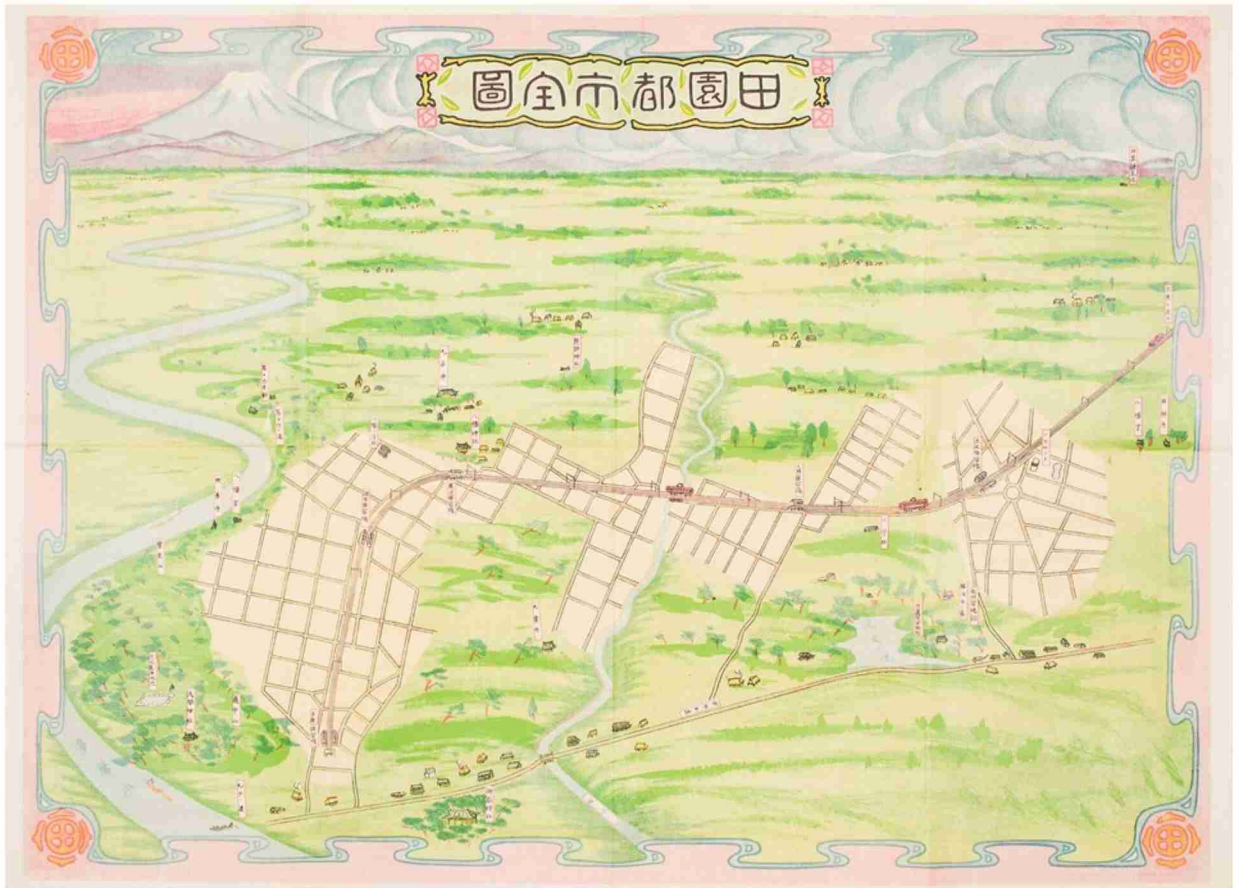


# 郊外の住宅地開発



「各所住宅地計画事例」

20世紀に入ると、東京近郊の農村地域で都市化が進み、多くの人々が暮らすようになりました。こうした流れが顕著となるのが、大正12年（1923）に発生した関東大震災以後のことです。都心から移り住む人たちが増え、郊外と都心の人口構成比も逆転します。

人口の増加に伴い、各所で鉄道沿線を中心に住宅地が造成されます。また、開発された地域に新たな鉄道が敷設されることもありました。東京都心から郊外へ延びる鉄道路線の多くは郊外が発展したこの時期までに出そろいます。